

第21回 日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 長崎

2013年7月6日(土)～7日(日)

ランチョン
セミナー4

がん哲学 外来カフェ

がん細胞で語る 現代社会とがん相談支援

日時

2013年

7月7日(日)

12:00～12:50

場所

長崎ブリック
ホール
第1会場

長崎県長崎市茂里町2-38

本セミナーは
事前登録制です
(登録締切日:6月1日)

大会ホームページより事前参加登録と一緒に申し込みください。

参加証とともにランチョンセミナー参加チケットが事前に大会運営事務局より郵送されますので、当日はそのチケットをご持参のうえ、会場までお越しください(チケットは再発行いたしません)。

なお、事前参加登録締切後は席数に余裕のある場合のみ当日参加を受け付けます。

その際は、総合受付近くにランチョンセミナーチケット配布所を設けます。

座長

医療法人 白髭内科医院 院長

白髭 豊 先生

演者

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授

樋野 興夫 先生



がん哲学外来カフェ がん細胞で語る 現代社会とがん相談支援

順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 教授

樋野 興夫

『がん哲学外来』のモットーとして、「暇げな風貌」と「偉大なるお節介」がある。「暇げな風貌」とは、たとえ忙しくても、そのことを表に出さず、「暇げな風貌」をした人が、ゆったりとした雰囲気と患者と対話できる資質のことである。「偉大なるお節介」とは、「他人の必要に共感すること」であり、「他の人々に注意を向ける」ことである。がん患者の苦悩や気がかりに耳を傾け、共感することで、患者の忘れかけていた自尊心を蘇らせる。殺伐とした現代に、一步踏み込んで対話し、人間存在の根幹に触れる「なすべきことをなそうとする愛」で、患者の希望や欲求を救い上げることが望まれている。

「暇げな風貌」と「偉大なるお節介」でもって、がん患者・家族の話を傾聴し、彼らが少しでも笑顔を取り戻して、がんであっても自分の人生を生きることができるようにする支援の一翼を担う。『がん哲学外来』は、殺伐とした現代社会の時代的要請でもあり、がん対策基本法や基本計画が掲げる「患者主体の医療」の事前の舵取りになると考える。医療崩壊の危機が盛んに言われる今日、『がん哲学外来』の存在は、時代の要請である。

- (1) 医師・医療従事者は生涯の学徒である。
- (2) 何故ならば、患者は最新・最良の診療を期待しているからである。
- (3) 専門家でさえ、日々の努力を怠る時に、専門家とは言えなくなる。

日本国における「『がん対策』は確実に歩みを進めてきているが、依然として十分なものとは言いがたい」実状も指摘されている。「『医療者が情報提供のみを行い、患者の自己決定を促す』ことが『患者を尊重すること』ではない」ことにも、国民は気が付き始めている。「古き歴史と日新の科学」を踏まえて、次世代の新しい精神として改めて問い直す時代の到来である。人間の尊厳に徹した医学・医療の在り方を考え、「潜在的な需要の発掘」と「問題の設定」を提示し、「医学・医療・教育・研究」に「新鮮なインパクト」を与えることが「がんプロフェッショナル」の使命であろう。

「医療から見た社会維新」

5ヶ条

- (1) 「明晰な病理学的診断」
- (2) 「冷静な外科的処置」
- (3) 「知的な内科的診療」
- (4) 「人間力のある神経内科的ケア」
- (5) 「人間の身体に起こることは、人間社会でも起こる＝がん哲学」

「医師は生涯書生」・「医師は社会の優越者ではない」・「医業には自己犠牲が伴う」(吉田富三)は、まさに、現代にも生きる「医師の3ヶ条」であろう。

企画/運営: 昭和薬品化工株式会社

「患者様が本当に満足する疼痛管理」を先生とともに考える

医療従事者向け会員サイト

《新規会員募集中!》

登録利用は無料

http://www.e-paincontrol.com/

疼痛ナビ 検索

詳しくはウェブサイトへ

Atelaminobeta CALONAL